

朝鮮と琉球王国（朝鮮通信使）



* 県史編纂所史料687「朝鮮通信使上関来船図（写真）」。原本は上関の超専寺にあります。

解説

いわゆる鎖国の時代にあって、オランダ・中国は「通商の国（商業貿易のみの国）」、朝鮮・琉球は「通信の国（心を通わせる誠信外交の国）」として交流がありました。とくに朝鮮とは1609（慶長14）年の己酉約条を基本として親密な交流があり、おもに徳川将軍の代替わりごとに12回の使節団が来日しました。

防長はその経路にあっていたことから、当館にも豊富な資料が残されています。写真は、上関での通信使一行を描いたものです。残念ながらいつの通信使かははっきりしませんが、総勢500人にも及ぶこともあった一行の、海上での様子がよくわかります。かつて海賊衆として瀬戸内海に覇を唱えた村上氏の末裔が先導役をつとめています。

* 朝鮮通信使の関連資料には、毛利家文庫 42御勤事62～66、徳山毛利家文庫 朝鮮人来聘記1～16、県庁伝来旧藩記録878～885「朝鮮通信使御記録」などがあります。

* 「県史編纂所史料」は、戦前の山口県史編纂所が、1937（昭和12）年から、県内外で調査・収集した県史関係の資料群です。県史編纂所は、県内外の資料所在先を採訪するとともに、東京毛利家・東京帝国大学・京都帝国大学などに嘱託員を置き、関係資料の筆写を続けましたが、戦争の激化によって1944（昭和19）年に中断し、資料群は県立山口図書館を経て当館へ移管されました。すでに原本が失われたものも多く、貴重な資料群です。